

CellPet 3D-iPSを用いたiPS細胞の培養

細胞種：253G1 (プレ培養：253G1細胞をiMatrix511 (Nippi) コートしたΦ60ディッシュで培養)

培養液：AK02N (Ajinomoto)

剥離液：EDTA (5 mM)

培養容器：ディスポザブル培養ベッセル<10ml>

培養条件(回転速度)：40 rpm

解析方法

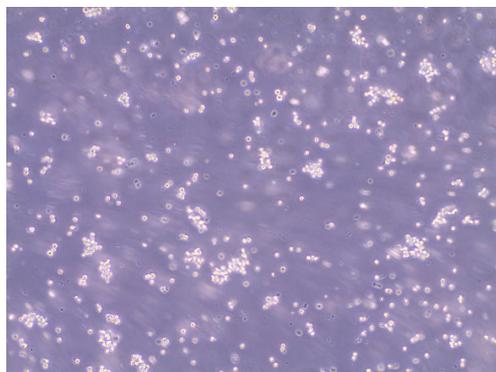
Cell Count：COUNTESS (ThermoFisher)

qRT-PCR：StepOne Plus (ThermoFisher)、TaqMan Gene Expression Assays (ThermoFisher)

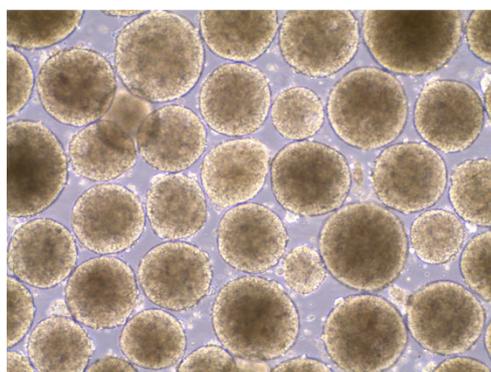
粒度分布：Cell3 Imager (SCREEN)

蛍光免疫染色：Nanog (Reprocell)、Oct4 (Santacruz)

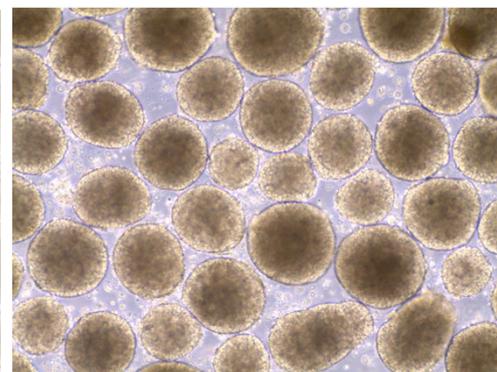
結果



剥離直後のiPS細胞

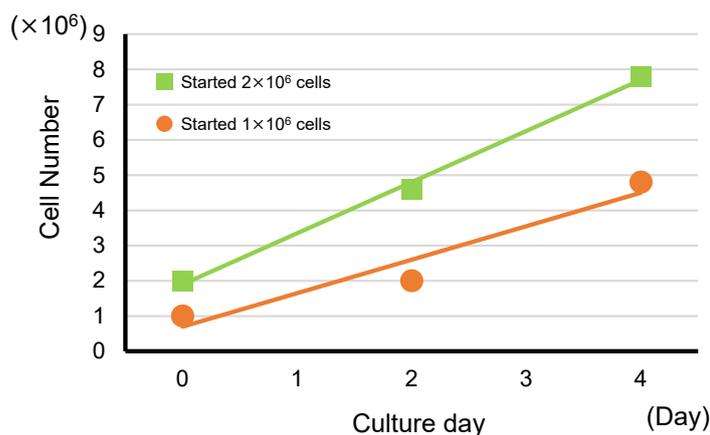


回収したiPS細胞
(播種数： 1×10^5 cell/mL)

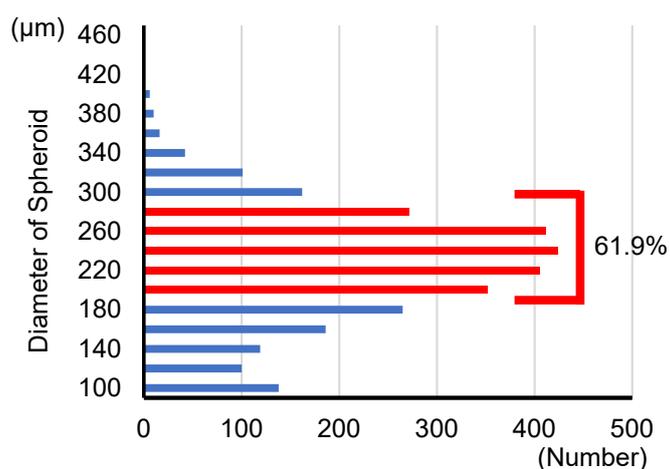


回収したiPS細胞
(播種数： 2×10^5 cell/mL)

増殖曲線



粒度分布



お問い合わせ先

(株)ジェイテックコーポレーション 営業部

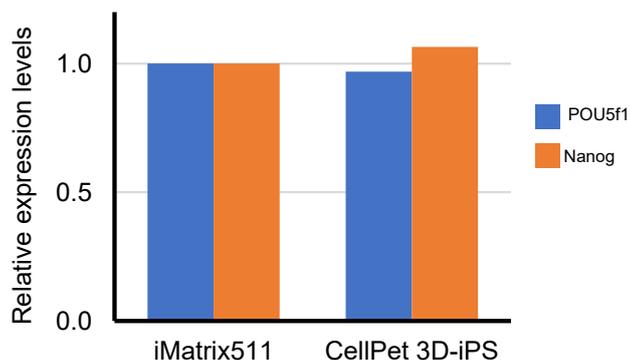
〒567-0086

大阪府茨木彩都やまぶき2-5-38

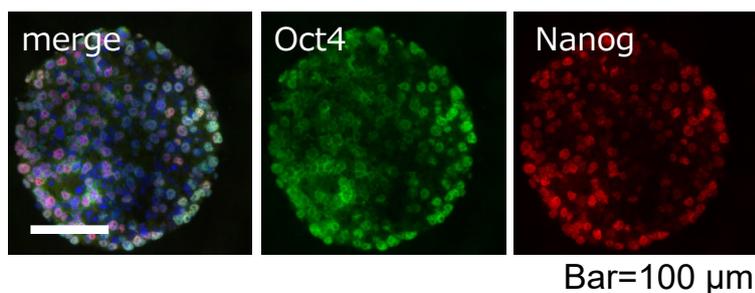
Tel : 072-655-2786 Fax : 072-643-2391

info@j-tec.co.jp

qRT-PCR



蛍光免疫染色



CELLFLOATシステムにより、未分化性を維持したスフェロイドを得ることができた。スフェロイドの大きさは、最頻値が220-240 μmであり、200-300 μm内に61.9% (1865/3013個) が存在していた。

考察

CELLFLOATシステムによる未分化性の維持は可能であることが示唆された。得られるスフェロイドは均一である。

本結果は、戦略的基盤技術高度化支援事業の支援により得られた